

第48回 北九州市都市計画審議会

審議概要

(1) 会議の日時・場所 平成23年11月21日(月) 15:00～
ホテルクラウンパレス小倉 3F

(2) 出席した委員および臨時委員の氏名

	氏名	役職	出欠
1	赤川 貴雄	北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科 准教授	
2	伊藤 解子	北九州市立大学都市政策研究所 教授	
3	乙間 末廣	北九州市立大学国際環境工学部環境生命工学科 教授	×
4	籠田 淳子	福岡県建築士会北九州支部 レディース部会長	
5	齋藤 貞之	九州国際大学経済学部 特任教授	
6	寺町 賢一	九州工業大学工学部建設社会工学科 准教授	
7	中村 雄美子	NPO法人北九州子育て・親育ちインバリエーションセンター-Bee 代表	
8	羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事	
9	原田 美紀	はらだ法律事務所 弁護士	
10	久野 善隆	北九州市西部農業委員会 会長	
11	福山 節子	福岡県不動産鑑定士協会北九州支部 不動産鑑定士	×
12	佐々木 健五	北九州市議会議員 議長(自由民主党)	
13	西 豊磨	北九州市議会議員 副議長(公明党)	
14	香月 耕治	北九州市議会議員 自由民主党	×
15	松井 克演	北九州市議会議員 ハートフル北九州	
16	桂 茂実	北九州市議会議員 公明党	
17	石田 康高	北九州市議会議員 日本共産党	
18	田上 秀彦	農林水産省九州農政局 農村計画部長	代
19	河原畑 徹	国土交通省九州運輸局 企画観光部長	代
20	塚原 浩一	国土交通省九州地方整備局 企画部長	代
21	井口 典之	福岡県警察本部 交通部長	代
22	小路 芳晴	福岡県 建築都市部長	代
23	土井 智子	北九州市女性団体連絡会議 会長	
24	福丸 清生	北九州市自治会総連合会 副会長	

は出席、×が欠席、代は代理出席を表す。

(3) 議事の内容

別紙のとおり

議題

付議事項

- (1) 議題第226号 福岡県が定める北九州都市計画に関する市の意見について(諮問)
都市計画道路の変更 12号線 外1路線【八幡西区】
- (2) 議題第227号 北九州都市計画道路の変更について
香月線 外3路線【八幡西区】
- (3) 議題第228号 北九州都市計画下水道の変更について
ポンプ場の廃止【戸畑区】

報告事項

- (4) 景観法一部改正に伴う北九州市景観計画の修正について

第 48 回北九州市都市計画審議会 議事要旨
(主な質問・意見と回答)

議題第 226 号 福岡県が定める北九州都市計画に関する市の意見について
(都市計画道路の変更 12 号線 外 1 路線)

議題第 227 号 都市計画道路の変更について(香月線 外 3 路線)

質問

1. 12 号線は、なかなか地元の同意が取れないことで、この道路の拡幅がなかなか進まなかったという経緯がある。計画では、南側に拡幅をするということで、随分住宅が張り付いているところを拡幅し、いわゆる立ち退きがかなり伴う計画になっている。計画の北側は、現在、宅地開発がされて造成工事がされているが、北側の拡幅という可能性は全くなかったのか。
2. 南側に拡幅する計画になり、若干、地元からは立ち退きの対象になるという方々から不満の声が出ている。計画について、立ち退き対象になるような方々からの意見は出ていないのか。

回答

1. 変更区間の前後は道路整備が完了しているということや 4 車線道路であるということ、スムーズな接続を道路構造令なども踏まえて、総合的に計画した結果である。多くの住宅がかかる線形になっているが、最良というふうに考えている。
2. 説明会の中で、北側に広げる形にはできないかという意見はあった。線形については、500 m 区間で、かつ前後が決まっており、スムーズな接続を道路構造令なども踏まえて、4 車線幅員 24m の線形を入れると、今回の線形にならざるを得ないため、何とか協力いただけないかという説明をしている。意見書等は出ていないということも踏まえ、事業協力に対しては、今後とも説明していきたいと考えている。

意見

3. 12 号線は、非常に狭く、片側 1 車線、しかも電柱がかなりあって、離合そのものもかなり危険が伴う道路であり、地元の方々も含めて、この道路を何とかしてほしいというのが、ほとんどのの方々のご意見である。接触事故もときどき起きている。そのため、この事業そのものは進めなくてはいけない事業だと思っているが、立ち退き等が伴う方もかなり出る案になっているため、地元に対する説明を十分に行って、協力をしていただけるように最大限努力をしてほしいと思う。

質問

4. 平成 16 年 12 月にまとめられた都市計画道路網の見直しでは、再編素案の基本方針として、「計画継続の必要性が低い路線の原則廃止」、この中に「代替路線がある、市街地形成機能が期待できないなど、都市計画道路としての機能等が極めて低くなっているものについては、原則として都市計画道路を廃止する」、それから、「さまざまな整備手法等の適用」というところで、「既存の道路に影響がある場合は、都市計画事業以外の整備手法やソフト施策を

展開することより改善を図る」と、うたわれている。

道路の必要性は、当初計画した北九州の人口が 105 万人から 135 万人になるという想定のもとから少なくなったが、実際交通需要が、当時の昭和 40 年から見ればかなり多くなっており、ということも事実である。

香月駅線廃止、それから野面香月駅線廃止については、代替路線ががいかにも現在貧弱であり、香月電停の前の梅崎橋に至っては、バスの迂回路も香月電停にあるため、その橋についてもバスが通るときはほかの車は通れないというような現状下にある。これの改良についてはどう考えているのか。また、野面香月線については、都市計画道路が整備されなければ、路線の一部では、道路の交通状態が非常に悪くなるのではと危惧している。

そういう路線の廃止にあたり、安全面での路線整備をどういうふうに考えているのか。

回答

4. 本市の道路整備については、都市計画道路として整備する事業と都市計画道路に関係なく整備する道路事業や交通安全事業などで推進している。

今回、廃止する路線は、代替路線がある、市街地形成機能が期待できないなど、都市計画道路としての機能が極めて低いと考えられることから都市計画変更に取り組んでいる。

香月駅線の今回廃止する新延橋から香月電停の間の区間については、現道整備について、既に地元と協議を建設局の方でしている。都市計画道路としてではなく、一般道路として今後整備をしていく形で、質問があった梅崎橋についても扱うような形で聞いている。野面香月駅線についても、一般道路として道路事業、あるいは交通安全事業で必要に応じて地元の方々と相談しながら、やっていくべきところについては引き続き協議していきたいと考えている。

都市計画道路でない場合、ルートが決まっていないので、協議の中である程度決めることができ、あるいは別の手法、交通安全事業という形でできる。今回廃止したところについては、必要に応じて現道の検討、多少ずれた形での道路整備など、幅広く検討ができるというふう考えている。

意見

5. 今回の見直しというのは市内の計画としては整合性もあり、合理性もあると思うが、市境を越えた瞬間に未整備になる可能性というのが出てくると思うので、広域の道路網の整備という観点から隣接都市との協議を継続的に行っていただければというふうに思います。

議題第 228 号 北九州都市計画下水道の変更について（ポンプ場の廃止）

質問

6. 旧来のポンプ場が古い基準、5 年確率で整備をされてきたので、更新の時期と問題というところがあるということだが、新しいポンプ場というのは新しい基準、何年確率など、どういう基準で整備をしているのか。

7. 戸畑駅の北側のところにごく最近マンションが幾つか建って、恐らく排水の状況というのが、その前の土地利用の状態と今の状態で違ってきている気がする。その部分を含めても安全なのかどうなのか。その安全を見込めないのであれば、旧来のポンプ場を、更新しないまでもそのまま置いておいて予備のときに使うとか、そのようなことは考えなくてもいいのか。

回答

6. 古い基準は、5年に1回の大雨に対応できるような基準であった。これを、昨今の市街化の進展に伴う浸水の危険性の拡大に伴い、平成2年に基準を見直した。現在は、10年に1回の確率の大雨にも対応できる整備を行っており、新しくできた戸畑ポンプ場は、その新しい基準で整備を行っている。

7. 戸畑駅の北口については、昔は古い3ポンプ場のエリアであった。そして、平成15年の大雨のときに浸水被害等があった。こちらも、戸畑ポンプ場の方に切り替わり、浸水に対する能力が向上するので、安全性が向上したと考えている。

報告事項 景観法一部改正に伴う北九州市景観計画の修正について

質問・意見 なし